

【2025年度】児童発達支援事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	ハッピーライフみなど				
○保護者評価実施期間	2025年11月20日 ~2025年12月20日				
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1人	(回答者数)	1人	
○従業者評価実施期間	2026年1月15日 ~2026年1月31日				
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人	
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日				

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動室の空間を生かした運動遊び	マットや跳び箱など広い空間だからこそ出来る遊びを展開し、身体を存分に動かして運動することが出来る。	職員の遊び展開の幅を広げて、運動遊びだけでなく大型工作なども行いながら微細運動も生かした活動を行っていきたい。
2	幅広い年齢層の児童同士の交流	児童同士がお互いを認識し、人と自分の違いや考え方の違いなどを学んでいくことが出来る。集団で過ごす空間によって協調性や社会性も学ぶことが出来る。	個々に活動している児童もおり、関わりがうすい事もある為、スタッフの促しや支援によって人と人のつながりを強化していきたい。そのためにスタッフの支援能力向上も図っていききたい。
3	法人内事業所同士の交流、合同イベントの実施。	季節ごとの活動内容を検討し、たくさんの児童との交流を目的に特色ある企画検討を行っている。	より密に連携を図る為、ジョブローテーションシステムを活用し、お互いの事業所や子ども達を理解しているスタッフを増やしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域に根差した事業所を目指すうえでの、地域の方や地域の事業所等との交流を行えていない。	地域の事業所との連携がまだ不十分である点。	自立支援協議会を通じて関わりが増えてきた事業所があるため、少しずつ合同イベントを企画し、進めている。実施事例を増やし、これからの連携強化にもさらに努めていく必要がある。
2	小学校高学年以上の児童が多いため、年少児童の安全確保に課題。	事業所の強みである運動遊びを行うに当たって、活動室が一空間である為、安全確保に留意が必要。	適宜、活動のルールの見直しや環境設定の為の話し合いを進めていく。また、迅速な環境配備により安全確保に努めていく。
3	個室空間での発達支援	集団活動を主な活動としていること、個別の活動を行う仕切られた空間がないこと。	個別の活動に重点を置いていないが、必要になった時の環境整備の案を準備し、迅速な対応ができるように努めていく。